

| | | | |
|---------|-------------------------|------|----------------|
| 科目区分 | クラスター共通基礎科目 | | |
| 授業科目名 | 基礎医学技術実習「タンパク質相互作用解析」 | | |
| 担当者名 | 齋藤 康太 | 配当年次 | 1, 2年次 |
| 単位数 | 1単位 | | |
| 授業形態 | 実験実習 | 実施場所 | 授業計画の〔実施場所〕を参照 |
| 開講期間 | 科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します | | |
| 開講曜日・時間 | 科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します | | |

授業の概要・到達目標

授業の目的: 薬理学において重要な酵素学的考え方を実習を通じて理解する。
 授業の到達目標: タンパク質を精製し、それぞれのタンパク質同士の相互作用を定量的に検討することにより、薬理学において重要な酵素学的考え方を身につける。

授業の概要:

1. 本実習の意義を理解する。
2. 大腸菌への遺伝子導入・発現誘導を実践する。
3. 大腸菌からのタンパク質精製を実践する。
4. 精製タンパク質の定量方法を理解する。
5. タンパク質相互作用実験を実践する。
6. タンパク質相互作用実験の結果を解釈する。
7. 本実習を総括する。

授業計画

| | 講 義 題 目 (講 義 内 容) | 担当教員 | 講座名 〔実施場所〕 |
|---|----------------------|-------|----------------|
| 1 | 本実習の概論 | 齋藤 康太 | 薬理学 〔講座研究室〕 |
| 2 | 大腸菌への遺伝子導入・発現誘導 | 齋藤 康太 | |
| 3 | 大腸菌からのタンパク質精製 | 前田 深春 | |
| 4 | 精製タンパク質の定量 | 齋藤 康太 | |
| 5 | タンパク質間相互作用実験 | 前田 深春 | |
| 6 | タンパク質間相互作用実験の解析 | 齋藤 康太 | |
| 7 | 本実習の総括 | 齋藤 康太 | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

成績の評価方法・基準

研究室での実習30時間＋自学自習15時間、計45時間で1単位とし、評価は出席状況と提出したレポートの内容を考慮して行う。

問い合わせ先(氏名、メールアドレス等)

齋藤 康太, ksaito@med.akita-u.ac.jp

その他特記事項

履修に関する情報: 社会人大学院生など勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。
 教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。
 自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。